

Sustainable Report No.168

廃棄食材の 生まれ変わり

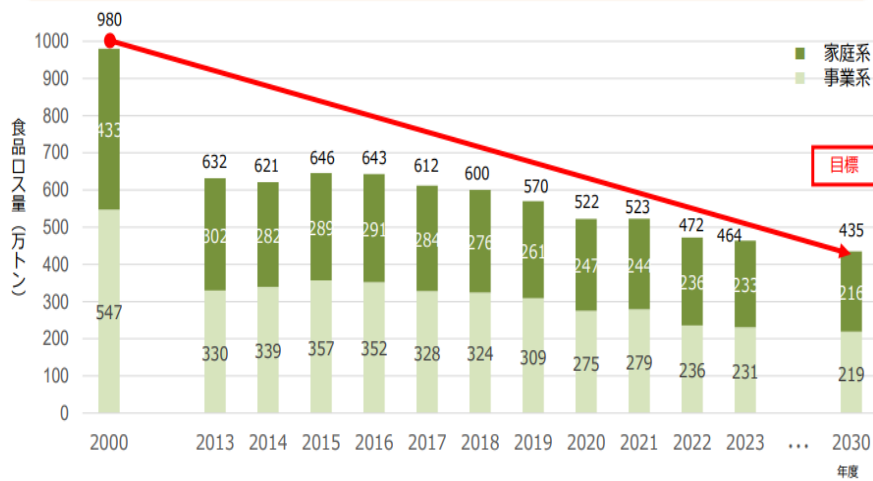


サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

- 日本では年間約**464万トン**の食品ロスが発生しており、これにより資源やエネルギーの無駄遣いなど、多くの問題や悪影響が生み出されている。
- 小売店や飲食店での**売れ残り**、**食べ残し**、買ったものの食品を使わず**捨てる**などがあげられる。
- ゴミの焼却処理には多額の公的コストとエネルギーが必要であり、**廃棄物処理全体では年間約2兆円**規模の処理費用がかかっている。また、焼却過程ではCO₂などの温室効果ガスも発生する。

■ 食品ロスの現状と目標



出典：[161227_4-208.pdf](#)

■ ごみ処理に関わる費用

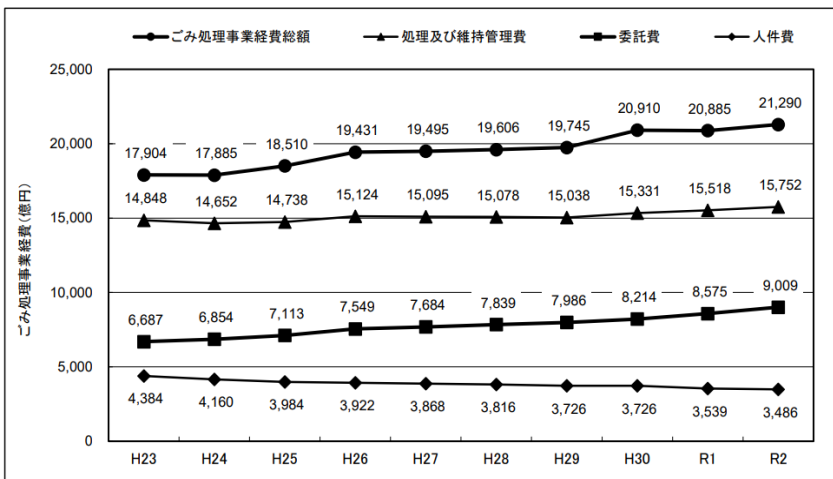


図-29 項目別ごみ処理事業経費の推移

出典：[900518688.pdf](#)

▶ NEXT : 食品の可能性を導き出す会社

■ 実行者／解決事例／残る課題

- 独自の方法で取り組む企業 CONVERSE (コンバース) ECORICH(エコリッチ) FOOD TEXTILE(フードテクス
スタイル)など廃棄予定の食材、規格外品や加工時の切れ端などから染料を抽出している。
- この染料には色落ちしにくいメリットがあり、50の食品から500の色合いを生み出すことに成功している。
- 多くの食品ロスに対応できておらず、挑戦している企業もまだ少ないのが現状である。
今後は、他企業においても、エネルギー化など廃棄食材の活用方法を増やす必要がある。

■ 食品が変化するまでの流れ



■ 抽出した染料と出来上がった物



ECORICHのアップサイクル糸と生地。多種多様な色の靴紐くすを全48色の均一な糸に生まれ変わらせる。

<https://foodtextile.jp/project.html>

<https://ideasforgood.jp/2021/04/02/foodtextile/>

▶ NEXT : 食品から作られた物が当たり前になる

■ 残る課題の原因／理想／企業施策

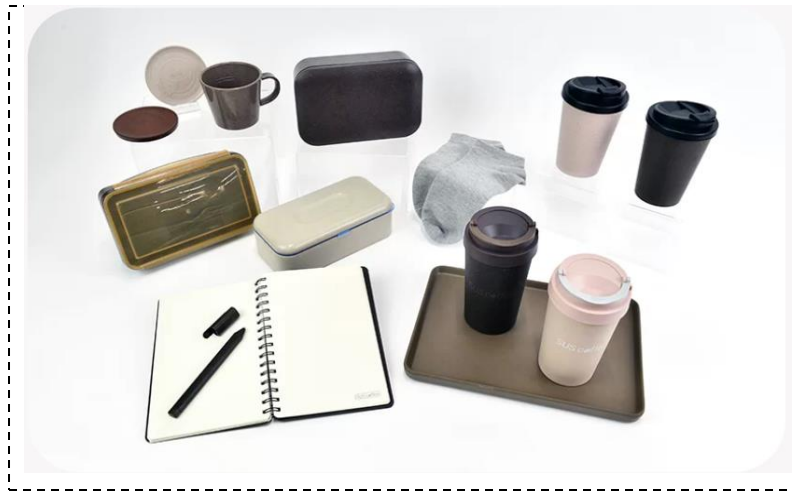
- 食品ロスの無くす方法が広がっていないことや挑戦するメリットが少ない、そもそも食品が他の物に変わることを知らない、考えていないなどが残る課題の原因になる。
- 食品によって生まれた物を**当たり前**に使う**社会**になること。そうなることで企業が挑戦しやすくなり、廃棄が多い状況を和らげることに繋がる。
- まずは食品から**生まれる可能性を知る**ことが大事になる。食品染料のメリット等を知ることで企業が興味を持つことや力を注ぎ、消費者にも伝わっていく。

■ 野菜から生まれた色



<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3567/>

■ コーヒー粉の可能性



<https://sus.i-goods.co.jp/columns/128>

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- 農林水産省, 「食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢」2026年01月27日、([161227_4-208.pdf](#))
- 環境省, 「一般廃棄物処理事業実態調査の結果」,2026年01月27日 (<https://www.env.go.jp/content/900518688.pdf>)
- FOOD TEXTILE, 「仕組み」,2026年01月27日 ([PROJECT | FOOD TEXTILE](#))
- IDEAS FOR GOOD, 「抽出した染料」,2026年02月26日 (<https://ideasforgood.jp/2021/04/02/foodtextile/>)
- 東京大学生産技術研究所, 「野菜から生まれた色」,2026年02月26日 (<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3567/>)
- SUSPRO, 「コーヒー粉の可能性」,2026年02月26日 (<https://sus.i-goods.co.jp/columns/128>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は小川電機株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。